

## The Open Group MUNICH Conference ハイライト 第二日目

- \* 開催日時: 2008 年 10 月 20 日 (月) ~ 10 月 22 日 (水)
- \* 開催場所: Arabella Sheraton Grand Hotel Munchen
- \* OPEN GROUP Conference in MUNICH  
<http://www.opengroup.org/munich2008/>

### <第2日目ハイライト>

Allen Brown 氏は、午前のセッションの開始に際して、参加者が企業内でどのようにエンタープライズ・アーキテクチャを利用しているかということについて2~3の質問をして調査した。1つの質問に関して、今朝のプレナリ・セッションの参加者の 43%の人が社内で開発されたエンタープライズ・アーキテクチャに基づいた EA ソリューションを現在利用していると、答えた。(更なる調査結果は、コンファレンス後の議事録を参照)。

第2日目の最初のプレナリ・プレゼンターは、Joel Goodling 氏、Group Enterprise Architect, ABB Switzerland で、“Adapting TOGAF for a Distributed Enterprise” というテーマで話された。氏は、ABB 社が世界中の5つの別会社から構成される企業で TOGAF を採用し、同社は 108 ヶ国 10 万人、70 ブランド、500 の異なる ERP システムを管理している。ABB のシステムは大変ばらついているので、財務的にも構造的にももっと全社的にまとめようというビジネス・ニーズがあつた。

ABB 社は本来アーキテクチャ的センスもないばかりか、企業全体のアーキテクチャを策定する企業戦略もなかった。アーキテクチャとして TOGAF を選択する前に、ABB はゴールド・ブロック・アプローチを試み最初に、アクセンチャの重いアプローチを採用し、それから軽い社内アプローチを試みた。幸いなことに、2つの選択肢の中で丁度適切な TOGAF を選んだ。理由は、TOGAF はフレームであり、コミュニケーションのためにも共通的で、内部的に簡潔で、構成を示してくれ、変更管理が容易で ABB 社の機敏性を促進できからである。フレームワークとして TOGAF を使用して ABB は社の環境に ADM を適用し、会社の多様な構成に対して結束力をもたらし、EA ガバナンスを適用し、プロジェクトのための支配的なビジョンを提供してくれた。

2番目のプレナリ・スピーカーは、Raghu Padmanabhan 氏、Director, Enterprise Architecture, Cisco UK が“The Network :Enabling Next-Generation Enterprise Architecture”というテーマで、氏が言うには、エンタープライズ・アーキテクチャを構築さ

れる際の“ネットワーク”についての基本的課題を話された。氏によれば、期待するネットワークを考慮するということは、企業にとっては将来の機敏性を用意することになる。ネットワークの検討は、企業内の現在の課題をどのように解決する必要があるかと同時に、将来にわたって企業をベストな位置づけをするか両方のことを考慮する必要がある。

氏は、ネットワークは考え方の問題であると言い、なぜなら、ネットワークは企業の機能の中枢部であるからだという。Forrester Research の調査によると、多くの企業でインフラの優先度は落ちているが、調査対象の 67% の企業がネットワーク・パフォーマンスが最優先の関心事だと答えている。

氏は、ネットワークはアーキテクチャ・フレームワークを始めるのに絶好の場所であり、理由はネットワークは IT 構成要素を結び付ける共通且つ唯一の要素であるからである。氏は、サービス・オリエンテッド・ネットワーク・アーキテクチャは、シスコ社では SONA と呼んでいる、ビジネス成果のための EA アプリケーションをを駆動するアーキテクチャの延長として使用され、ネットワークは EA フレームワークのための中枢のフレームワークである、という。何故ならば、それは如何なる EA フレームワークにおいてもネットワークやコミュニケーション・サービスに繋がられる。

次は、Dr. Verena Schmidtman 女史、Senior Consultant, Detecon International GmbH, Germany が“Using TOGAF at Deutsche Telekom to Consolidate a CRM Landscape”というテーマで女史の EA コンサルテーションの経験談を話された。女史は、Deutsche Telekom と一緒に行った Detecon 社の仕事がいいくつかの理由で EA マネージメントを組織に紹介した良い例であると話した。

最初に、プロジェクトは EA というよりビジネスの問題に焦点を当てた。事実、プロジェクトを遂行する中で、EA 手法を利用したにも拘わらず、お客様はとワークする際には実際 EA という言葉は決して使用しなかった。ドイツ中の 5 万人のユーザに対する CRM の実行については、Deutsche Telekom と Detecon のチャレンジは、顧客満足度の向上とコンタクト・センターを通じて顧客に対するもっと均一のサービスの提供を創造することである。

プロジェクトの最終目標は、全社的な統合化された CRM システムを構築し、パーソナライズされたキャンペーンに応え、全員が能力を発揮する協業体制を作ることである。のベースとして TOGAF を選択した。理由は、TOGAF はプロジェクトの初期フェーズでの顧客ニーズからマイグレーション・フェーズまで適用できるからである。

TOGAF は、彼らのニーズに合ったビジネス・ビジョンや共通の言葉、プロジェクトの方向、プロジェクトの目標やマイルストーンを作ることができるようにし、会社の財務モデルのような特定のニーズにも合致した。プロジェクトの結果の効果としては、アーキテクチャやその管理のための洗練されたツール・セット、全社を通じて彼等が作成したロードマップを実行しようとする合意形成ができた。

午前中の最後のプレナリ・スピーカーとして、Ron Tolido 氏、CTO Continental Europe & Asia Pacific、Capgemini は、“A Compelling Case for Open Business Analysis”というテーマで講演された。氏は、バベル塔 (Tower of Babel) の話から開始し、Business Analysis (BA) のように、“Babel”は“BA”から始まり、また business analysis も共通の言葉の必要性で始まり、もはや統一化の必要がない。氏によれば、BA (Business Analysis) は IT とビジネスを橋渡しするものとして使われ、ビジネス・プロセス分析の熟練は IT 機能の中核部である。

Forrester を引用して、氏は、ビジネス分析者には2つのタイプが出現している、という。それらは、ビジネス中心の分析者であり、IT 中心のビジネス分析者である。ビジネス分析者にとって必要なことは、機能横断的に2つの側面のギャップを橋渡しすることである。

BA は、グローバル規模の企業にとって重要であり、ビジネスがテクノロジーに依存し、そして企業内に boundarless information flow を確立する必要があるからである。現在、Capgemini は、SEMBA と呼ぶ社内のビジネス分析手法を開発してきた。The Open Group のBAワークグループはビジネス分析とビジネス・アーキテクチャの接続を検討している。

今必要なことは、BAを如何にしてシステム開発やビジネス遂行に適応させるかを理解すると共に、もしBAがもっと正当化できたら、標準やベストプラクティスを作成することである。

本日の午後のセッションには、EA & Business Standards、Extending EA to the Enterprise and Secure Architecture のテーマのトラックがあった。

“Extending EA to the Enterprise”のトラックでは、如何にしてアーキテクチャについての変えて、如何にしてそれを企業に適用していくかについての議論が中心であった。

Walter Stahlecker 氏、Open Group Fellow, Germany が“Quest to Apply Architecture Holisticall”というテーマで講演を行った。氏は、ビルディングや都市計画、造船、IT などの種々のアーキテクチャ・タイプがある、という。氏はまた、言葉の意味は概念や専門家、ドキュメントそのものにも使われる。アーキテクトは、その本質に焦点を当て、企業を手

助けし、EA はすべてのエンタープライズ・モデルの結集したものとして見る事ができる。TOGAF は今や、企業組織の内部から企業の全体ビューを捉えることができるようにアーキテクトのために最適化されている。このビューは、組織の中の異なる関心のために、しばしば異なったアーキテクチャを含むことがある。BA ワーキング・グループでは現在、これらのすべての異なるアーキテクチャや関心事をもっと全体的ビューで使用方法を検討している。セッションに続いての議論は、アーキテクチャの定義とともに、アーキテクチャのスコープをどうしたらよいか、そして参画したステークホルダの大半を満足させるにはどうしたらよいかに集中した。

2番目のストリームの EA & Business Standards トラックでは、Joseph Francis 氏、Executive Director, Supply Chain Council は、“From Business Strategy to IT Architecture: The SCORE Reference Process”というテーマで講演した。

SCOR プロセスは、サプライ・チェーン・マネジメントのためのフレームワークである。氏によれば、フォーチュン 10 社のコストの 60%から 90%は、サプライ・チェーンである。サプライ・チェーンは、大規模なコスト・センターのようなものであるので、アーキテクトが管理しなければならないインフラの大部分を含めて当然のことながら IT に焦点が当たる。

SCOR を使用している企業は、彼らのビジネス全体に顕著な変化と改善が見受けられる。サプライ・チェーンは、非常に多くの特定のプロセスとプロダクトに複雑に結び付いてので、大部分の企業は組織全体の中に数百、数千の別々のサプライ・チェーンを持っており、各々が独自の IT インフラを所有している。SCOR のプロセスは、プロジェクトの戦略策定から始め、検討を行い、資料やワークフローを作成していくので、SCOR は、アーキテクトにとってプロジェクトのビジネス目標の優先度付け、ビジネスで使用するシステムをマッピングするの手助けになる。最後に、SCOR を利用したプロセスは、戦略的ビジネス・プロセスと IT アーキテクチャ、管理とを統合化するに非常に役立つ。

Secure Architecture のトラックでは、Jeremy Wide 氏、Managing Director, ITGRC、UK が“Future of Security Management & Compliance”のテーマで講演した。氏は、セキュリティ・マネジメントとコンプライアンスのための BPM (Business Performance Management) を使用したプロセスを紹介した。理由は、BPM がセキュリティ・マネージャーがビジネス・プロセスの設計に付加価値を付ける1つの分野であるからである。

また、事実として、セキュリティ・マネジメントは、ガバナンスやリスク、コンプライアンスのための短期的ニーズと益々関連が強くなってきているからである。BPM はある期間存在しており、多くのビジネスがパフォーマンスに焦点を当てているが、BPM はコンプラ

イアンス短期のニーズのためには広く採用されて来なかった。セキュリティとコンプライアンス管理のために BPM を適用することにより、リスク・マネージメント・ワークフローやポリシー・マッピング、リスク・モデリング、コントロールの自動化、管理の効果についての分析などの多くの利益が実現できる。BPM は、ウェブ・アーキテクチャで、コンプライアンスやセキュリティ評価の中に組み込まれたセキュア・ビジネス・プロセスを導入できる。

以 上